



ジョンカラープロ

農林水産省登録 第21145号

1/2

平成29年2月23日現在

適用及び使用方法

作物名	使用目的	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	キノキサリン系を含む農薬の総使用回数	M E P を含む農薬の総使用回数
りんご	摘葉	500～1500倍	200～700ℓ/10a	収穫30～50日前	1回	散布	1回	3回以内



アグロ カネショウ株式会社
<https://www.agrokanesho.co.jp/>



⚠ 効果・薬害等の注意

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきる。
- 本剤の所要量を水に希釈し、よくかきまぜて散布液を調製し、果そう葉を中心に散布する。
- 散布の際は汚れによる着色不良をさけるため展着剤を加用する。
- 本剤は使用するりんごの品種によって効果等に違いがあるため、以下の点に注意する。
 - ① ふじなどの晩生種に使用する場合、散布前後で数日間気温の低い日が続くと効果が不十分となるおそれがあるため、晴天で温暖な時期を選び、所定範囲内の高濃度で散布する。
 - ② つがるなどの早生種に使用する場合、散布前後で数日間気温の高い日が続くと過剰落葉となるおそれがあるため、極端な高温とならない時期を選び、所定範囲内の低濃度で散布する。
- 若木や徒長枝が多い樹などでは効果が不十分になることがある。
- 過剰落葉となるおそれがあるため、重複散布はさける。
- 落葉が不十分な場合は、手摘み又は水散布などで補正葉摘みを行う。
- 次のような条件では過剰落葉・薬害のおそれがあるので使用をさける。
 - ① 樹勢の弱い樹。
 - ② 病虫害の著しい被害を受けた樹。
 - ③ 極端な高温時。
 - ④ ボルドー液を散布した後の樹。
- 本剤散布に使用した器具類は、使用後できるだけ早く水で十分洗浄し、他の用途に使用する場合、薬害の原因にならないように注意する。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにする。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意する。
 - ① ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにする。
 - ② 関係機関（都道府県の農薬指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努める。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

⚠ 安全使用上の注意



- 誤飲、誤食などのないよう注意する。
 - 誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせる。
 - 本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受ける。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意する。
 - 眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。
- 散布の際は防護マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用する。
 - 作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換する。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯する。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意する。

治 療 法…MEPの解毒剤：硫酸アトロピン製剤及びPAM製剤が有効。

魚毒性等…水産動植物（魚類、甲殻類、藻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。

使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。

保 管…密封し、直射日光をさけ、食品と区別して、冷涼・乾燥した所。

